

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201625		
法人名	株式会社エーアイエム		
事業所名	えいむの丘		
所在地	静岡県静岡市清水区北矢部780-2		
自己評価作成日	11月1日	評価結果市町村受理日	令和6年4月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、「あなたらしく私らしく、住み慣れた地域で安心して笑顔で暮らす家」を理念に、一人ひとりの入居者様のこれまでの生活歴や個性を尊重し、ご自分のペースで気楽に生活して頂けるよう支援をしております。気の合う方同士でお話しされたり、お1人で過ごしたい方は居室でのんびり過ごして頂いたりその方が過ごしたい場所で過ごせるよう、環境づくりに力を入れています。同一敷地内に、訪問看護ステーションがあり、日々の健康管理や体調変化の早期発見、受診の援助や緊急時の対応等、連携しながら行っています。理念に掲げている、安心して笑顔で暮らす事が出来ます様、職員間でケアの方法を模索しながら支援をさせて頂いています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2294201625-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5 年 11 月 30 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所1階には、法人運営の訪問看護ステーション・看護小規模多機能型居宅介護(デイサービス)・地域交流室が併設され、常に職員・利用者の出入りがある。併設事業所の看護師が毎日訪問し、職員は常に相談できる環境があり、医療と連携して利用者の健康を管理することができる。事業所では、2ユニットの職員全員でケア会議にて介護計画の検討を行い、利用者・家族の意向に沿った個々の暮らしぶりの支援を心掛けている。コロナ禍でも、病院の付き添いやオンライン面会、利用者の様子のタイムライン送信など、家族と関わる機会を絶やさない対応を実践してきた。制限緩和を受け、地域交流室を活用した地域住民ボランティアとの交流を再開している。法人は年2回職員と個人面談を行い、要望や異動について話し合う環境を整えている。感染対策として、定期的な換気やこまめな掃除を心掛け、安全で清潔な空間作り注力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私らしくあなたらしく」を理念に掲げ、1人1人に寄り添った介護を提供している。共同生活の中でも個人のこれまでの生活史を大切に生き生きと生活が出来る様な支援を行っている。	管理者は、法人の経営会議にて法人代表や他事業所管理者との意見交換や情報共有を図っている。事業所では月1回のケア会議を行い、管理者・職員全員が理念に基づく、利用者に寄り添った介護支援の実践を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以降、自治会活動への参加や、地域住民のボランティアなどを通じ、閉鎖的な施設にならないよう取り組んでいきたい。	制限緩和を受け、感染状況をみながら、地域行事への参加やボランティアの受け入れを始めている。事業所1階の地域交流室を開放して、地域住民ボランティアによる麻雀を復活して、地域住民との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍以降、地域住民との関わりを中止していたが、これから認知症の人の理解や支援を、地域の方に発信していきたい。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍以降、オンライン方式に切り替え、2ヶ月に一度の開催を継続し、包括の方や地域住民との意見交換も継続できている。	運営推進会議は、コロナ禍以降、2か月に1回、オンラインと対面を併用した会議形式により、地域包括支援センター・地域代表・家族が参加して開催している。参加者へ事前に資料を送付し、情報共有と意見交換を図り、事業所運営に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所単位では特に連絡を取る事項が無かったが、法人として必要に応じて協力体制をとることができている。	法人は、地域包括支援センターと連携して、併設する看護小規模多機能事業所とともに、事業所内の地域交流室を利用した静岡市委託事業の開催など、静岡市清水区事業に取り組み、常に協力・相談できる関係を継続している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のケア会議時に身体拘束について議論している。二階階段扉、エレベーターは事故防止の為施錠している。防犯目的で夜間は玄関扉の施錠を行っている。	運営推進会議参加者の協力を得て、身体拘束適正化委員会を3か月に1回、開催している。指針・マニュアルを整備し、毎月ケア会議において、利用者への対応に関する現状の検証と研修を行い、職員間の情報共有を図っている。	24年度から虐待防止に関する指針の策定と研修の実施が義務付けられる。身体拘束適正化に関する委員会・研修と虐待防止の委員会・研修は、区別して実施する仕組み作りを期待します。

静岡県(えいむの丘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	現在、身体的な拘束を行っている利用者はいないが、虐待の定義を適切にとらえ、今後も虐待防止に努める。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、知識を深めるよう努力している。また、学んだ知識はケア会議内で発表し職員への周知を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧な説明を行い、その都度質疑応答に応え、理解して頂いたうえで契約して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に相談窓口の案内を全員行っている。また、電話連絡時や、受診の付き添い等で会話をする機会のある時はその都度ご家族の心配事や不安な点など様々な話を聞く様スタッフ一同心掛けている。	毎月、利用者の様子を写真と職員のコメントをつけて報告している。コロナ禍でも、電話やオンライン面会、受診時の付き添いなどの工夫をして、家族と関わる機会を多く設け、その都度家族から意見・要望の聴き取りに努めてきた。制限緩和を受け、更に機会を増やすように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	改善できる点についてはスピード感を持って対処している。また、ケア会議において、職員より意見を集め、検討している。現場のリーダーと共に職場環境の適正化に努めている。	毎月2ユニット合同でケア会議を行い、職員全員の意見交換を図っている。法人は、年2回職員と個人面談を行い、要望や異動について話し合う環境を整えている。管理者・主任・ユニットリーダーは連携して、事業所運営に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回個人面談を行い、職員の自身の要望等を聞き取り、会社として職員への希望を伝えている。また、面談時だけでなく普段の現場でも職員からの意見を聞き、意見の言いやすい雰囲気づくりを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人間で別の事業所が複数あるため、その都度職員の能力に応じて移動等を打診している。		

静岡県(えいむの丘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内の賀詞交換会には毎年出席し、他事業所との関わりを保てる様にしている。また、他事業所から転職してきた職員や、様々な経験のある職員から、良い所を吸収し取り入れるようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様とお話しし信頼関係を気づきながら、困りごとや不安を解決し、安心した生活を送ることが出来る様支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居の際に、ご家族様と面談し、困りごとや要望を聞き、解決できるよう支援の方法を提案している。また、その後もご家族様から要望等あった際は対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様に話を聞き、必要時は看護師や理学療法士も含め、最適なサービス提供が行えるよう検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的に全てやってあげるのではなく、本人の出来る事や、やりたい事が自分でできるような支援や声掛けを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様といつでも面会できるよう、また嗜好品や生活用品など、ご本人様の希望があれば、ご家族様がお持ち頂けるよう体制を整えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様だけでなく、友人やお知り合いの方も面会できるよう、ご家族様にお伝えしている。	コロナ禍でも、電話やオンライン面会など工夫して関係継続に努めてきた。制限緩和を受け、家族・親戚の訪問や美容院・買い物・通院、地域住民ボランティアとの交流など、様々な機会を想定し、積極的に関係継続の支援に努めている。	

静岡県(えいむの丘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お話の合う方や、相性の良い方を把握し、入居者様一人ひとりが過ごしやすい空間づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の生活に応じ、施設での生活のご様子や介護方法、病歴といった情報提供を行い、必要に応じて相談に答え、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人介護計画を立て、安心して暮らせるよう支援している。本人からの聞き取りが困難な場合はご家族やスタッフ間で検討し、本人本位な計画となる様努めている。	入居時にフェイスシートを利用して、利用者・家族の希望及び病院や訪問看護からの情報を把握している。入居後は、日々の状態を介護日誌・ケース記録等に記録して、意向の把握に努めている。得られた情報は、ケア会議にて職員全員が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に病院やご家族様から得たこれまでの情報を確認し、職員全員が把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中で気付いたこと、ADLや感情の変化に気を配り、申し送りノートや、介護日誌に記録し、職員間で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアのあり方についてはケア会議時やその都度課題を見直し、介護計画書は半年に一度、介護度の変更があった場合、入退院により大きく状態が変わった時等に見直しを行い、サインをもらう。	毎月2ユニット合同で行うケア会議にて、利用者全員の状況について、介護日誌・介護記録等を基に検討して介護計画作成に繋げている。事業所独自の「グループホーム介護計画書」様式を活用し、利用者の状態に即して利用者や家族の意向を反映する介護計画作成に注力している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の流れはほぼ変わらないため、その時の本人の様子や発言した内容などを記載するように心がけている。また、記録から、その方にあった声掛けの方法や、ケアの方法を模索している。		

静岡県(えいむの丘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科、訪問医、訪問マッサージ、特別指示書での訪問看護など、一人一人のニーズに対応し外部業者を活用し支援を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお店や公共施設、観光地などの訪問を、月のレクリエーションで実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も、昔からのかかりつけ医がご希望の場合はそちらを受診して頂くよう案内している。状態が変わった場合やご希望される場合はその都度往診医のご案内等もおこなっている。	協力医の定期的な訪問診療(月2~4回)と併設する事業所の看護師(毎日訪問)により、利用者の体調を管理している。24Hオンコールやオンラインツールを活用し、常に連絡・相談できる体制が整えられている。家族と連携して、入居前からのかかりつけ医への通院や他科受診も継続している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日午前、午後バイタル測定を実施している。バイタル値や、体調や様子に変化があった際は、その都度看護師に報告し、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院へ介護サマリーを送付している。また、病院の連携室に退院時期や状態確認などを適宜行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の変化の中で家族とは密に連絡を取り合い、状態変化した場合のご家族の希望や、ご本人の思いの橋渡しを行っている。また、看取りの場合には往診医への切り替えのご案内なども行っている。	入居時に「重度化対応・終末期(看取り)ケア対応指針」を利用者・家族へ説明し、事業所での対応について同意を得ている。重度化した際には、併設の訪問看護ステーションと連携して、家族の希望に沿って支援している。職員は定期的な研修により、緊急時の対応を心得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	最低限の初期対応、訓練を行っている。また、予兆のある場合は事前に看護師、家族と相談し、対応する準備を行っている。		

静岡県(えいむの丘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月のBCP委員会を継続し常に、災害や感染症対策への対応を考えている。年に2回防災訓練を行い、様々な想定でも最善の対応が出来る様訓練している。	年2回(9月・12月)、併設事業所と合同でテーマを決めて災害対策訓練を実施している。法人は、毎月BCP委員会を開いて事業所の対応を検討すると共に、水・食品等の備蓄品を、1週間分を目途に事務所倉庫に備えている。発電機は訓練の際、試運転を行っている。	訓練実施で得た課題は、次回訓練へ継続して改善されることが重要なことから、課題を整理した訓練記録の整備を期待します。災害時業務継続計画(BCP)では、事業所ごとの現状に即して地域住民と連携した計画策定を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他人行儀になり過ぎず、個々を尊重した対応を心掛けている。また、無理にリビングにいてもらわず、1人の時間を大切にしたい方にはお部屋での時間を過ごして頂いたり、個人を大切にしている。	個人情報保護・写真掲載等について、入居時に利用者・家族へ説明し、同意を得ている。入社時と定期的な研修により職員の意識づけを図り、人格を尊重した対応を促している。管理者・ユニットリーダーは、課題が散見された際には、ケア会議で取り上げるとともに、都度注意を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の生活のリズムを大切に、生活して頂いている。また、ご本人の思いや希望を聞きながら、実現できるよう生活の援助を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ほとんどの入居者様が一日の流れを把握しその中で自由に過ごしている。会話の中で聞かれた希望があれば実現できるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自宅からお好きな服をお持ちになり着て頂いている。化粧品など、お好みによりお持ちになられている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いや食器拭きなど手伝ってもらっている、一緒に台所に立ち家事を行っている	平日昼・夜は宅配食を利用しているが、朝食と日曜日の食事は、利用者の好みの献立を手作りしている。外食やお菓子(和菓子)作りの機会を設け、食事を楽しむ様子を写真に撮り、事業所タイムラインに載せている。利用者の能力に応じて、食事の準備や片付けを一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人にあった食事量水分量を把握し、毎日記録を行っている。		

静岡県(えいむの丘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている、自分でやるのが難しい方には職員が介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄パターンを確認し適宜声掛けしトイレ誘導、介助をおこなっている。	職員は、利用者個々の排泄パターンを観察して「排泄記録」に記載し、早めの声掛けとトイレ誘導を心掛けている。ポータブルトイレ利用者には、安全のためナースコールを使用して、職員の介助対応にて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お茶が苦手な方にはジュースを提供したり、毎日体操を行ったりし、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日6名の方が入浴をしている。その方の希望に出来る限り浴う形で入浴順や入浴の仕方を決め支援している	週2~3回、午前中を目途に入浴を支援しているが、利用者の希望や体調に合わせて、同性介助や入浴時間等を調整して、柔軟に対応している。利用者の状態に合わせて、シャワー浴・機械浴の対応ができる。好みのシャンプーを使うなど、気持ちよく入浴できる環境作りを心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間、起床時間を設定せず、一人一人のタイミングで生活してもらうよう心掛けている。昼夜逆転になってしまう場合等はご本人の気持ちや体調を尊重しながら、起床時間や休息の時間を考え過ごしてもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の担当者を決め、管理と配役、ご家族との連携を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の生活史や、嗜好をふまえ日々の生活の中で一緒に活動できるものは取り組むようにしている。		

静岡県(えいむの丘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レクリエーションでの外出や、ご家族様の協力のもと、外出出来る様支援している。また、職員付き添いで近所を散歩している。	コロナ禍の中でも、近隣の散歩や定期受診時の家族の付き添いなど工夫しながら、面会・外出支援を実施してきた。制限緩和を受け、家族の協力を得ながら、レクリエーション(花見・紅葉狩りや外食など)での外出機会を設けて支援を続けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金として、本社事務にてお金を預かっている、欲しい物や買いたいものがある場合はそこから購入するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	書いたハガキや手紙など職員がポストに投函している。ご自分で携帯電話を使用される方もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや自室などがわかりやすいように名札を付けたり案内を貼っている。また生活動線には出来る限り物を置かないよう配慮している。	2時間毎の換気、都度消毒、加湿器利用とこまめな掃除(朝・昼・夜)により、感染対策と衛生管理に努めている。利用者は、2ユニット中央の居間に置かれた大きなソファなど、好みの場所で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の相性により、テーブル席を変更したり、1人で過ごしたい方は居室で過ごして頂く等配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より、ご本人が使用していた家具や使い慣れた道具をお持ち頂き、ご本人が過ごしやすい空間づくりに努めている。	エアコン・クローゼット造り付けの居室は、入居時に馴染みの家具やテレビを持ち込み、利用者の暮らしぶりに合わせた過ごしやすい部屋作りを支援している。定期的な換気・掃除と加湿器により、安全と衛生に配慮した環境作りを心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員が、その方の生活歴、生活習慣、現在のADL等の情報を把握し、その方の性格や、特徴にあった支援を提供している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201625		
法人名	株式会社エーアイエム		
事業所名	えいむの丘		
所在地	静岡県静岡市清水区北矢部780-2		
自己評価作成日	11月1日	評価結果市町村受理日	令和6年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2294201625-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5 年 11 月 30 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、「あなたらしく私らしく、住み慣れた地域で安心して笑顔で暮らす家」を理念に、一人ひとりの入居者様のこれまでの生活歴や個性を尊重し、ご自分のペースで気楽に生活して頂けるよう支援をしております。気の合う方同士でお話しされたり、お1人で過ごしたい方は居室でのんびり過ごして頂いたりとその方が過ごしたい場所で過ごせるよう、環境づくりに力を入れています。同一敷地内に、訪問看護ステーションがあり、日々の健康管理や体調変化の早期発見、受診の援助や緊急時の対応等、連携しながら行っています。理念に掲げている、安心して笑顔で暮らす事が出来ます様、職員間でケアの方法を模索しながら支援をさせて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私らしくあなたらしく」を理念に掲げ、1人1人に寄り添った介護を提供している。共同生活の中でも個人のこれまでの生活史を大切に生き生きと生活が出来る様な支援を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以降、自治会活動への参加や、地域住民のボランティアなどを通じ、閉鎖的な施設にならないよう取り組んでいきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ過以降、地域住民との関わりを中止していたが、これから認知症の人の理解や支援を、地域の方に発信していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ過以降、オンライン方式に切り替え、2ヶ月に一度の開催を継続し、包括の方や地域住民との意見交換も継続できている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所単位では特に連絡を取る事項が無かったが、法人として必要に応じて協力体制をとることができている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のケア会議時に身体拘束について議論している。二階階段扉、エレベーターは事故防止の為施錠している。防犯目的で夜間は玄関扉の施錠を行っている。		

静岡県(えいむの丘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在、身体的な拘束を行っている利用者はいないが、虐待の定義を適切にとらえ、今後も虐待防止に努める。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、知識を深めるよう努力している。また、学んだ知識はケア会議内で発表し職員への周知を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧な説明を行い、その都度質疑応答に応え、理解して頂いたうえで契約して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に相談窓口の案内を全員行っている。また、電話連絡時や、受診の付き添い等で会話をする機会のある時はその都度ご家族の心配事や不安な点など様々な話を聞く様スタッフ一同心掛けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	改善できる点についてはスピード感を持って対処している。また、ケア会議において、職員より意見を集め、検討している。現場のリーダーと共に職場環境の適正化に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	年に2回個人面談を行い、職員の自身の要望等を聞き取り、会社として職員への希望を伝えている。また、面談時だけでなく普段の現場でも職員からの意見を聞き、意見の言いやすい雰囲気づくりを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人間で別の事業所が複数あるため、その都度職員の能力に応じて移動等を打診している。		

静岡県(えいむの丘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内の賀詞交換会には毎年出席し、他事業所との関わりを保てる様にしている。また、他事業所から転職してきた職員や、様々な経験のある職員から、良い所を吸収し取り入れるようにしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様とお話し信頼関係を気づきながら、困りごとや不安を解決し、安心した生活を送ることが出来る様支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居の際に、ご家族様と面談し、困りごとや要望を聞き、解決できるよう支援の方法を提案している。また、その後もご家族様から要望等あった際は対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様に話を聞き、必要時は看護師や理学療法士も含め、最適なサービス提供が行えるよう検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的に全てやってあげるのではなく、本人の出来る事や、やりたい事が自分でできるような支援や声掛けを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様といつでも面会できるよう、また嗜好品や生活用品など、ご本人様の希望があれば、ご家族様がお持ち頂けるよう体制を整えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様だけでなく、友人やお知り合いの方も面会できるよう、ご家族様にお伝えしている。		

静岡県(えいむの丘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お話の合う方や、相性の良い方を把握し、入居者様一人ひとりが過ごしやすい空間づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の生活に応じ、施設での生活の様子や介護方法、病歴といった情報提供を行い、必要に応じて相談に答え、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人介護計画を立て、安心して暮らせるよう支援している。本人からの聞き取りが困難な場合はご家族やスタッフ間で検討し、本人本位な計画となる様努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に病院やご家族様から得たこれまでの情報を確認し、職員全員が把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中で気付いたこと、ADLや感情の変化に気を配り、申し送りノートや、介護日誌に記録し、職員間で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアのあり方についてはケア会議時やその都度課題を見直し、介護計画書は半年に一度、介護度の変更があった場合、入退院により大きく状態が変わった時等に見直しを行い、サインをもらう。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の流れはほぼ変わらないため、その時の本人の様子や発言した内容などを記載するように心がけている。また、記録から、その方にあった声掛けの方法や、ケアの方法を模索している。		

静岡県(えいむの丘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科、訪問医、訪問マッサージ、特別指示書での訪問看護など、一人一人のニーズに対応し外部業者を活用し支援を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお店や公共施設、観光地などの訪問を、月のレクリエーションで実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も、昔からのかかりつけ医がご希望の場合はそちらを受診して頂くよう案内している。状態が変わった場合やご希望される場合はその都度往診医のご案内等もおこなっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日午前、午後バイタル測定を実施している。バイタル値や、体調や様子に変化があった際は、その都度看護師に報告し、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院へ介護サマリーを送付している。また、病院の連携室に退院時期や状態確認などを適宜行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の変化の中で家族とは密に連絡を取り合い、状態変化した場合のご家族の希望や、ご本人の思いの橋渡しを行っている。また、看取りの場合には往診医への切り替えのご案内なども行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	最低限の初期対応、訓練を行っている。また、予兆のある場合は事前に看護師、家族と相談し、対応する準備を行っている。		

静岡県(えいむの丘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月のBCP委員会を継続し常に、災害や感染症対策への対応を考えている。年に2回防災訓練を行い、様々な想定でも最善の対応が出来る様訓練している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他人行儀になり過ぎず、個々を尊重した対応を心掛けている。また、無理にリビングにいてもらわず、1人の時間を大切にしたい方にはお部屋での指間を過ごして頂いたり、個人を大切にしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の生活のリズムを大切にし、生活して頂いている。また、ご本人の思いや希望を聞きながら、実現できるよう生活の援助を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ほとんどの入居者様が一日の流れを把握しその中で自由に過ごしている。会話の中で聞かれた希望があれば実現できるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自宅からお好きな服をお持ちになり着て頂いている。化粧品など、お好みによりお持ちになられている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いや食器拭きなど手伝ってもらっている、一緒に台所に立ち家事を行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人にあった食事量水分量を把握し、毎日記録を行っている。		

静岡県(えいむの丘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている、自分でやるのが難しい方には職員が介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄パターンを確認し適宜声掛けしトイレ誘導、介助をおこなっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お茶が苦手な方にはジュースを提供したり、毎日体操を行ったりし、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日6名の方が入浴をしている。その方の希望に出来る限り浴う形で入浴順や入浴の仕方を決め支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間、起床時間を設定せず、一人一人のタイミングで生活してもらうよう心掛けています。昼夜逆転になってしまう場合等はご本人の気持ちや体調を尊重しながら、起床時間や休息の時間を考え過ごしてもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の担当者を決め、管理と配役、ご家族との連携を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の生活史や、嗜好をふまえ日々の生活の中で一緒に活動できるものは取り組むようにしている。		

静岡県(えいむの丘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レクリエーションでの外出や、ご家族様の協力のもと、外出出来る様支援している。また、職員付き添いで近所を散歩している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金として、本社事務にてお金を預かっている、欲しい物や買いたいものがある場合はそこから購入するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	書いたハガキや手紙など職員がポストに投函している。ご自分で携帯電話を使用される方もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや自室などがわかりやすいように名札を付けたり案内を貼っている。また生活動線には出来る限り物を置かないよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の愛称により、テーブル席を変更したり、1人で過ごしたい方は居室で過ごして頂く等配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より、ご本人が使用していた家具や使い慣れた道具をお持ち頂き、ご本人が過ごしやすい空間づくりに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員が、その方の生活歴、生活習慣、現在のADL等の情報を把握し、その方の性格や、特徴にあった支援を提供している。		